

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者様が、できるだけ自分らしい生活スタイルを継続できるよう、その方の気持ちになって、職員全員で考えました。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は、目に付くところに掲示しその実践に向けて日々取り組んでいる。また、どうすれば、実践できるのかなどのお話し合いも行なっている。</p>	<p>○</p> <p>中途採用の職員にも、理念についての説明をし志をともにケアの実践ができるよう話している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入所契約の際に理念の説明をしている。家族会や会議の資料等にも必ず添付するようにしている。運営推進会議でも公表し地域で理解を深めてもらえるよう話し合いをしている。</p>	
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>出退勤時やその他の用事で隣近所の方に出会ったら笑顔で挨拶をしている。また、年末の餅つきは隣近所に配ったり、祭り事時には奉納の品を献上している。当所は、学童時の通学路にもなっている為、かけこみ110番の表示もしている。</p>	<p>○</p> <p>わりと近い所からボランティアさんに来ていただいている。当所の地域にもボランティア活動をされているサークルがあるので広報し浸透していきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>事業所は、自治会との話し合いや地域の行事等にふれあう機会を持ち、地域の保育園の園児との交流や飲食店の利用をしている。</p>	<p>○</p> <p>核家族化や個人情報保護による閉鎖的な環境の中、昔ながらの情緒あふれる風景に少しでも近づけたいと思案するばかりで、話し合いを持っても理解がなかなか得られない状況がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者様が地域と交流できる方法として、職員が支援できることはないか話し合いをしている。	○	神社の掃除や散歩がてらに堤防のゴミ拾い。気候に合わせて実施していきたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることによって、ケアのあり方や自分を評価し、忘れかけていたことや改善の必要性を見出している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告についての評価や助言をいただき、サービスの向上に活かしている。また、サービス以外での様々な立場からの意見が聞けて介護福祉の発展につながる話し合いができていると思う。	○	運営推進会議の構成員に、もっと様々な人員を選出したいと考えている。地域の警察派出所へお願いしたが返答してもらえなかった。広報不足を感じた。地域密着型サービスの理解と広報を(行政も合わせて)実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の実施する研修等に進んで参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解を深める為、研修等に参加し全職員に報告、周知できるようにしている。成年後見制度の必要性や充分な説明ができるように市民後見人の研修に参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に毎年参加している。言葉のかけ方やケアのあり方に注意を払い、虐待が見過ごされないようにしている。また、職員のストレスが虐待に発展しないようにシフトの組み方にも考慮して作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶときは、理念や勤務体制、生活の様子、地域との関わりなどを充分説明し、解約する時もその理由などの理解・納得を図り、不安、疑問点についても尋ねたり答えたりしている。		退所後の行き先に不安がないように、同系列の施設等を利用できるよう便宜を図っている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、不満、苦情は会話の中から聞きだすようにしている。また、ボランティアさんや介護相談員と気軽に話し、内容について報告を受け改善したり、運営に反映できるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の健康状態や生活の様子は随時、家族へ報告している。職員の異動や行政上の変更等についても施設便り及び個々に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で家族が来所された時は、意見、不満、苦情等がないか尋ねるようにしている。	○	家族等の意見を豊富に出していただけるよう、環境や関係づくりに努力したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、話し合いや実施に向けての方向付け等を行い運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や利用者様の状態に合わせて柔軟にシフトの変更ができる体制になっている。その為の話し合いも行なっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はやむをえない場合を除き行なっていない。離職の申出があったときは、話を充分聞き、改善できることはそれに向けての配慮で思い留まるよう説得している。新しい職員には、指導職員を付け利用者様と馴染んでから夜勤を組み入れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、全職員が均等に受けられるようにしている。介護技術について不安な職員にはスキルアップの為に研修や講座に参加させている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会員になり、勉強会や他事業所との交流、訪問、ネットワークづくりをしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減する為、食事会やイベントの計画等工夫している。シフトは希望に沿えるよう配慮し無理な組み入れが無いようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績が表現しやすいように、係りや担当を決め任せている。経過、結果は全職員に報告するようにしている。研究発表の場を設け、向上心をもって働けるように努めている。		毎月1回、全職員が個々にテーマを決め順番に勉強会を開いている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始になるまでの期間は、本人、家族にとって不安や様々な葛藤があるため、何度か自宅を訪問し顔なじみとさせていただくようにしている。その時に、情報収集も行い早期に信頼関係を築けるように努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始になるまでの期間は、本人、家族にとって不安や様々な葛藤があるため、利用者様の暮らしの状況を説明したり、家族の意向を聞く機会を持ち受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、現状の把握に努め本人と家族に何が必要かを見極めるようにしている。他のサービスが適切と思われる場合は、紹介や他事業所と連絡を取りあったりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が不安なく馴染めるように、家族と相談し利用前に見学にきたり職員が自宅を訪問し顔見知りになったりして、始めて来たと思えないように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人のできる力を引き出せるよう、そのヒントや少しの支援で介護される立場におかず、ともに生活することを基本に家族のように過ごし学んだり支えあったりできる関係を築こうとしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間を通して行事等には家族も参加していただき、喜怒哀楽をともにできる機会を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を理解する為、情報収集に努め、より良い関係作りのための話し合いや提案をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきたものや馴染みの物は、持参して入所していただいている。また、行きつけの理容室に継続していけるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常の会話や様子等を把握し、仲の良い人同士の席順や助け合えるような場面づくり(食事の配膳、移動中の譲り合い等)、他者と馴染みにくい方への声かけやレクリエーションの参加等に配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された利用者様の行き先(老健など)での様子を伺ったり、面会や家族への年賀状のやり取りなど関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方がどんな暮らしをしてきて、どう生きていきたいのか本人の意向、家族の思いなどの情報を収集し、その支援に向けて努力している。(センター方式を利用)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し情報の収集に努めている。家族にも協力を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアの中でお一人お一人の様子を観察し、記録に残し必要に応じて検討しあっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の今の状態を把握し、課題とケアのあり方について随時話し合い、家族や必要な関係者に相談し意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		ご利用者の担当職員を付け、毎月モニタリングを行なっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について毎月話し合いを行なっている。日々の申し送りの中でも問題が発生したらその場で話し合い、現状に即した介護計画の実施ができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、実践やその内容、気づきなど分かりやすく個別に記録し、情報を共有しながら継続されたケアが実践されるようにしている。介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自由な面会時間や外出、外泊、家族の状況に応じて(本人の)病院受診の支援など柔軟に行なっている。食事時の習慣や栄養補助食品等の管理など多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市が行なっている運動教室に参加する等、地域資源を活用している。		現在、週に1日ボランティアの協力を得ている。近くに小学校があるため、「おたすけハウス(110番)」の協力をしている。近地区の中学校の職場体験学習の場として提供している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人からの意向はほとんど無いが必要性を感じたら、地域包括の職員や他のケアマネジャーに相談するようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーでもあるため、必要に応じて相談するようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に相談したり連絡を取り合ったりし、状態についての報告や指示をもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関連施設の専門医に相談したり、診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当所の看護職員は、利用者の日常の健康管理や医療活用の支援をしている。また、介護職員からの相談や報告を受け医療に関する不安等を緩和している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院した時は、状態についてや入院期間などを病院関係者と情報交換や相談をし、早期退院と本人、家族の不安緩和に努めている。		利用者様が入院した時は、他の職員も面会に行き元気付けているとともに情報交換をしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人や家族、職員、医師等と話し合い全員で方針を共有している。		終末期のあり方は、家族や職員と話し合いをしたことがある。施設での「看取り」の希望や実践に向けての意思確認を話し合ったが、医療の最低限の設備、職員体制、医療機関の協力量など課題も多く、在宅で行なわれる「看取り」の責任の違いや職員教育等、慎重に取り組まなければならないと考えている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様の状態に応じて、ケアのあり方を検討しあい、今後の変化に備えられるようかかりつけ医とともにチームとして支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様が別の場所へ移り住む場合、本人に関わる関係者と十分な話し合いや情報交換、面談(訪問)を行い、混乱の最小化に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の情報を基に言葉かけや対応の仕方などに注意を払い、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。記録等の個人情報は、関係者以外、及び許可なく漏出しないように厳守する体制がある。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で選択したり、希望を言えるような場面づくりをしている。お茶に何が飲みたいか、どちらがいいか等本人に合わせて選択の幅を考慮している。	買い物支援を行なっている。献立決め、食材選びなど職員とともにスーパーへ行き支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当所での基本となる1日の流れはあるが、本人のペース、その日の気分に合わせて無理なく過ごせるように支援している。起床時間や就寝時間、食事の時間や早さ等。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	当所でも散髪できるが、行きつけの店や美容は本人の希望するところへいけるよう支援している。	カットは家族の方が当所でされる方もいる。毛染めやパーマは家族とのふれあう時間としてできればお願いしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によって、旬のものを利用者様と職員と一緒に下ごしらえをしたり、調理法や好みの話をし、その方の力に応じて一緒に調理し一緒に食事をしている。食材の買い物や配膳、下膳を行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人、家族が習慣としている健康食品の常用やおやつを増量等一人ひとりに合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はできるだけオムツ(はくぱんつ等)はさげ、頻繁に漏れや失禁があるときは排泄パターンのチェックを行い、声かけのタイミングを図っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調や安全の確保が優先されるが、本人の希望に沿えるようにはしている。拒否が続く場合は、声かけの方法や時間を考慮しタイミングを図っている。		年に1回ではあるが温泉を楽しむ行事を行なっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具類はできるだけ自分の使い慣れたものを持参していただいている。天気の良い日は布団を干し、シーツ類の洗濯や交換を行なっている。和室では自由に休息したりのんびりできるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の力に合わせて役割や日課を支援している。花見やドライブ、遠足等楽しみごとの支援をしている。		本人の力量に合わせて、洗濯干し・取り込み・たたみ、配膳の準備、下膳、掃き掃除、水巻等の役割、観賞魚の世話、髭剃り(髭剃りの掃除も含む)、買い物(食材)、見舞い等の日課を支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じて所持して。買い物時は、金銭の出し入れを自分で行なえるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天候に応じて、散歩に出たりドライブやピクニックに行ったりしている。		買い物を日課にしたり、行きつけの理容室に行けるよう支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入所前(認知症になる前)はよく行っていた墓参りや趣味で歩いた懐かしい風景の場へ出かける機会をつくったり、郊外行事には家族にも参加していただき楽しんでいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかける希望があるときは、やり取りができるよう支援している。		暑中見舞い、年賀状を書く機会を支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、遠方からの訪問など面会があり、本人も喜んでいる。面会時には、場所の設定や食事等の配慮など居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、全職員が周知できるよう伝達報告をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。その工夫について話し合いも行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関(日中のみ)には鍵をかけない決まりがある。利用者様は自由に庭に出ることができ、職員が介添えしている。敷地周囲のフェンス(門扉)には施錠があるが、職員体制上、手薄になる時間帯を考慮し安全性の問題から家族、職員、運営推進会議で話し合い容認していただいている。		門扉の施錠について、その形体が違和感を感じるとの指摘があり早急に取り替えた。外見上も目立たず、簡易になり利用者様には解除が困難な工夫をした。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様は、職員の都合に縛られることなく自由に過ごし、昼夜を通して安全に配慮し、常に人数の確認や様子の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だからといって何もかも排除するのではなく、家庭的な雰囲気を持しながら、見守りの厳守や隠す工夫をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じて起こりうる危険性を察知し、全職員が同じ対応ができるよう伝達し事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置法、急変時の対応について毎年、研修に参加し全職員に周知している。また、事故発生時のマニュアルを作成しており、随時確認できるよう直ぐに見れるところに置いてある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防が実施する防火研修に参加し、年2回防災訓練として消火訓練、避難訓練、通報訓練を行ない、設備等の点検を毎月行なっている。運営推進会議で、地域の消防団へ建物等の概要を記した協力依頼書を渡す等の働きかけがある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できる限り、一人ひとりの力が発揮できるよう抑圧の無い環境を心がけており、そのための工夫とやむをえなく起こりうる危険性について家族に充分説明し理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝健康チェックを行うと共に記録をし、その変化に気づけるよう把握に努めている。変化があるときは、看護職員に報告し速やかに対応できる体制がある。		関連施設の内科医が随時検診に来ており、日頃の健康管理と病変時のスムーズな対応ができるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について、薬情報書により詳細の確認を行なっている。服薬の準備は3回は確認すよう、かく勤務で行い間違いが無いようにしている。薬の種類、効能などについて直ぐに確認できるよう常に見れるところに置いてある。		臨時薬や変更等の薬は、看護職員が説明し全職員が理解するよう努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についての勉強会がある。予防の為の食事の工夫、適度な運動の働きかけをし、便秘傾向にあるときは食物繊維の加工食品(イーザーファイバーなど)を利用し排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きと就寝時の義歯洗浄を行い、口腔内の状態確認や力に応じたケアを実施している。		うがい時、飲み込まれる方はお茶で歯磨きを行なっている。訪問歯科の無料検診を利用し、義歯、口腔内のチェックを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や状態、疾病に応じて栄養バランスが取れるよう勉強会を行ったり、摂取量のチェック、体重の変化にも気を付けている。		状態に応じて、刻み食や粥、ミキサー食などの食種で提供し、箸、スプーン、食器等の使い分けで食べやすいように工夫している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルを作成し、全職員が周知できるようにしている。行政等からの通達は、家族、職員にも伝わるようにしている。		インフルエンザ予防接種は毎年、全利用者様、全職員が受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、調理器具等は食器乾燥機で加熱処理し、シンク、まな板等は次亜塩素酸ナトリウム(ハイター)で消毒を調理終了時に毎回行っている。食材は、その日か前日までに用意し新鮮なうちに調理している。		冷蔵庫の消毒を毎週1回実施。専門業者の衛生管理研修会を当所で実施(利用者様も含めて)。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	分かりやすいように当所の名称を大きく表示している。一般住宅と思わせるような雰囲気になっており、駐車スペースの確保や見通しの良い周囲になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の草花や季節行事に応じた飾り付けをし、入浴剤の香りや食事の支度の香り、居間の光の調節、冬季のトイレ内の温度調整等心地良く過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが安心できる居場所を確保できるよう、日頃の様子や本人の希望を取り入れ配慮している。個々に自分の場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は安全を考慮しつつ、本人や家族と相談しながら配置し、馴染みの物や好みを活かした部屋づくりをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜間、ポータブルトイレを使用している居室は消臭剤を使用したり部屋の換気を行なっている。その他、不在している時間は空気の入れ替えを行い、夏期、冬季での温度調節は気を配っている。特に、夜間の温度調節は安眠できるよう(トイレ時や起床時)こまめな気配りをしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりや玄関のスロープ、低めの洗面台等、本人にあわせて自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレに迷わず行けるよう分かりやすく表示したり、矢印や目印の工夫をしている。洗面、歯磨き、洗身などの日常動作の中で次の動作に混乱しないようにジェスチャーやヒントを与えながら自分でできるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花壇があり、利用者様が楽しめるよう花の植え替えや草むしり等職員と一緒にしている。ベランダは布団を干したり、下着類を干したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほほ毎日のように
		<input checked="" type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当所は、清潔感と言葉遣いの徹底に特に力を入れています。それは、外から来て一番最初に見るものは環境と職員の笑顔（対応）だからです。利用者様の心の変化は、そういうものに大変影響されます。利用者様を自分に置き換えたら、どうしてもらいたいかを常に考えながらケアを行なっています。勤務体制や職員配置の厳しい中、少しでもその方の思いに近づきたいと日々、努力しています。また、認知症の理解を深める為研修等に積極的に参加し、技術の向上に努めています。